

## 明治天皇駐蹕之所 大阪偕行社跡

## /追手門学院小・中・高等学校

大阪府中央区大手前1-3-20

- ▶ 現在の追手門学院小・中・高等学校はかつて「大阪偕行社」でした。偕行社とは陸軍将校の倶楽部(集会所)で、明治9年(1876)6月に設立し、当初は「博交社」と称していました。設立の主旨は、陸軍将校の親睦、教養、研鑽を目的とした勉強クラブでした。
- 明治15年(1882)、東京の偕行社、仙台の一志社、熊本の有修社などと合併し、全国統一の組織名となり「大阪偕行社」と改称されました。当初は各地を転々としていましたが明治20年(1887)1月に現在の場所に新社屋が建設され移りました。
- 明治天皇が、明治20年(1887)2月15日、16日に行幸された際、行在所となりました。また明治31年(1898)11月18日、陸軍特別大演習終了後、文武官3千名を召されてこの地で御宴が催されています。
- 昭和20年6月、大空襲により社屋は全焼し、終戦後、偕行社は解散となりました。跡地には現在、追手門学院大手前中・高等学校と小学校があり、中・高等学校の正門の門柱は大阪偕行社当時のままで使用しており、小学校校舎には大阪偕行社の玄関が残され、今でも使用されています。



大阪偕行社の門柱(追手門学院大手前中・高等学校正門)



大阪偕行社の玄関(追手門学院小学校の校舎)



＜大阪借行社附属小学校＞

「国家有為の人物の育成」を目指し、「将来の日本発展の原動力となる人材は小学校時代から育成すべきである」という思想をもって設立されたのが大阪借行社附属小学校です。設立は明治21年（1888）、設立者は薩摩藩出身の高島鞆之助（1844-1916）です。

建学の精神は、高島鞆之助が生まれ育った薩摩藩（鹿児島）の「郷中（ごちゅう）教育」（儒教の思想に則り、武士の子弟は幼少の頃から互いに学問や武芸の修練に努めて切磋琢磨すること、礼儀を正しくして品性を高め、秩序を守ること、年長者は自主的に年少者や弱者をいたわること）が基礎となっています。

この大阪借行社附属小学校は戦後中学、高校、大学、幼稚園が設置され、追手門学院と名称変更され現在に至っています。



高島鞆之助

＜高島鞆之助(たかしま とものすけ)＞ [弘化元年(1844)11月9日～大正5年(1916)1月11日]  
薩摩藩の武士の家に生まれ、藩校造士館に学び、戊辰戦争に従軍します。明治期になり次のとおり歴任しています。明治7年(1874)陸軍大佐、西南戦争で別働第1旅団司令長官、同16年(1883)陸軍中將、同24年(1891)第1次松方内閣の陸軍大臣、翌年、樞密顧問官、同28年(1895)台湾副総督。第2次伊藤内閣および第2次松方内閣では拓殖務大臣と陸軍大臣を兼務。

7 石田三成邸跡(大坂城三の丸邸跡) 大阪府中央区大手前2-1-88

- ▶ この辺りは、大坂城三の丸がありました、その中に五奉行の中の一人である石田三成邸がありました。現在、大手前学園のビルが建っている辺りに該当します。同学園は昭和56年4月より校舎増設に伴い、大坂城に関する発掘調査を行ないました。数々の遺物遺構が見つかった中で、石田三成邸にあったとされていた井戸の遺構が見つかっています。その井戸の石の一部が同学園のビル玄関に飾られています。



「大坂の史跡を訪ねて」次回もご期待ください